

# 私立大の入学定員割れは、 過去最多の160大学、29.5%！

短大は定員割れ校数減だが、  
割合は41.3%で5年ぶりのアップ

旺文社 教育情報センター 17年7月

17年度に入学定員割れとなった私立大は、校数では過去最多の160校で、全私立大学(集計校)に占める割合も前年度より0.4ポイント増の29.5%に達したことが、日本私立学校振興・共済事業団の調べでわかった。

短大では四年制大への改組・転換などで総校数が減って入学定員割れ校数も減少したが、定員割れの割合は16年度より0.3ポイント増の41.3%で、5年ぶりの増加となった。

以下に、同事業団がまとめたデータを基に私立大・短大別に入学定員充足率等の概況を探った。

## 私立大

私立大全体の基礎データ

(表1)

区分	平成17年度	平成16年度	増減
集計校数	542校	533校	9校
入学定員A	431,037人	425,492人	5,545人(1.3%)
志願者B	3,015,674人	3,067,654人	51,980人(1.7%)
志願倍率B/A	7.00倍	7.21倍	0.21ポイント
受験者C	2,889,175人	2,939,335人	50,160人(1.7%)
合格者D	996,670人	954,706人	41,964人(4.4%)
合格率D/C	34.50%	32.48%	2.02ポイント
入学者E	473,714人	470,128人	3,586人(0.8%)
歩留率E/D	47.53%	49.24%	1.71ポイント
入学定員充足率E/A (加重平均)	109.90%	110.49%	0.59ポイント
入学定員割れ校数(割合)	160校(29.5%)	155校(29.1%)	5校(0.4ポイント)

(注) \*対象は一般選抜、推薦入学(社会人・帰国子女等含む)、AO入試など。通信制大学3校、株式会社立大学3校を除く。

\*志願者・受験者数は、併願含む延べ数。\*印は減少を示す。

## 概況

17年度の私立大の入学定員は43万1,037人で、16年度より5,545人(1.3%)増加。これは短大からの改組・転換(スクラップ&ビルド)や、新設大学・新增設学部(学科)等による。

入学者数は14年度の約48万3,000人をピークに15・16年度と減少したが、17年度は入学定員の増加などで前年度より3,586人(0.8%)増の47万3,714人。(表1参照)

私立大の志願者数(一般・推薦・AO入試等含む延べ数。以下、同)は、13年度から15年度まで増加した後、16・17年度と2年連続で減少した。

17年度は18歳人口・高卒者数とも3.2%の減少が見込まれる中、私立大の志願者数・受験者数はともに1.7%の減少に留まった。これは、18年度からの新課程入試を控えた「後がない入試」意識やセンター試験「英語」の平均点ダウンなどで、国公立大志望者が私立大上位校の併願を増やしたことなどによるとみられる。

入学者が定員の50%に満たない大学は16年度の15校から2校増えて17校となり、定員の70%台が2校、80%台が3校、90%台が7校それぞれ増加した。(図1参照)

なお、50%未満 17校の内訳は、20%未満 2校、20%以上～30%未満 3校、30%以上～40%未満 6校、40%以上～50%未満 6校だった。因みに200%以上が2校。全体の入学定員充足率は16年度より0.59ポイント低下し、109.90%だった。入学定員充足率は4年度以降、16年度まで110%台をキープしていたが、17年度で110%台を割り込んだ。(図3参照)

全国13地区(各地区の当該地域は図4参照)の入学定員充足率をみると、中国(充足率94.73%)と四国(同94.22%)が16年度に引き続き入学定員割れ地区。前年度定員割れ地区であった北陸(16年度充足率99.98%)は、規模の大きい特定の大学(工学系)の人気などから、104.70%に好転している。全国平均の充足率(109.90%)を上回っている地区は、東北(110.16%)、南関東(114.01%)、東京(114.26%)、京都・大阪(113.01%)の4地区に限られている。しかし、充足率を前年度と比べると、東北以外の3地区はいずれも低下しており、都市部であっても人気(魅力)のない大学・学部では定員割れ状態が伺える。

なお、各地区の志願倍率(一般・推薦・AO入試など全ての選抜。以下、同)も全国平均の7.00倍を超えているのは、前年度と同じ、東京(9.57倍)、京都・大阪(8.37倍)、近畿(7.72倍)の3地区のみであるが、いずれも倍率は前年度より低下している。(図4参照) 学部系統別の動向をみると、志願倍率が最も高いのは医学の21.69倍(16年度20.34倍)、以下、薬学(13.63倍)、農学(9.33倍)、文化(8.01倍)、法学(7.67倍)などとなっている。

一方、入学定員充足率が最も高いのは薬学(115.71%)で、以下、看護・福祉(114.28%)、家政(113.17%)、外国語(112.52%)、文学(112.07%)など。薬学部は17年度も大幅な増設があり、当該の新設学部では高倍率を示したところも少なくないが、全体としての志願者数の伸びは鈍く、志願倍率、入学定員充足率とも16年度を下回った。薬学部の過去3カ年の動向をみると、志願倍率は19.30倍(15年度) 15.97倍(16年度) 13.63倍(17年度)、入学定員充足率は119.51%(同) 117.44%(同) 115.71%(同)と、低下傾向にある。

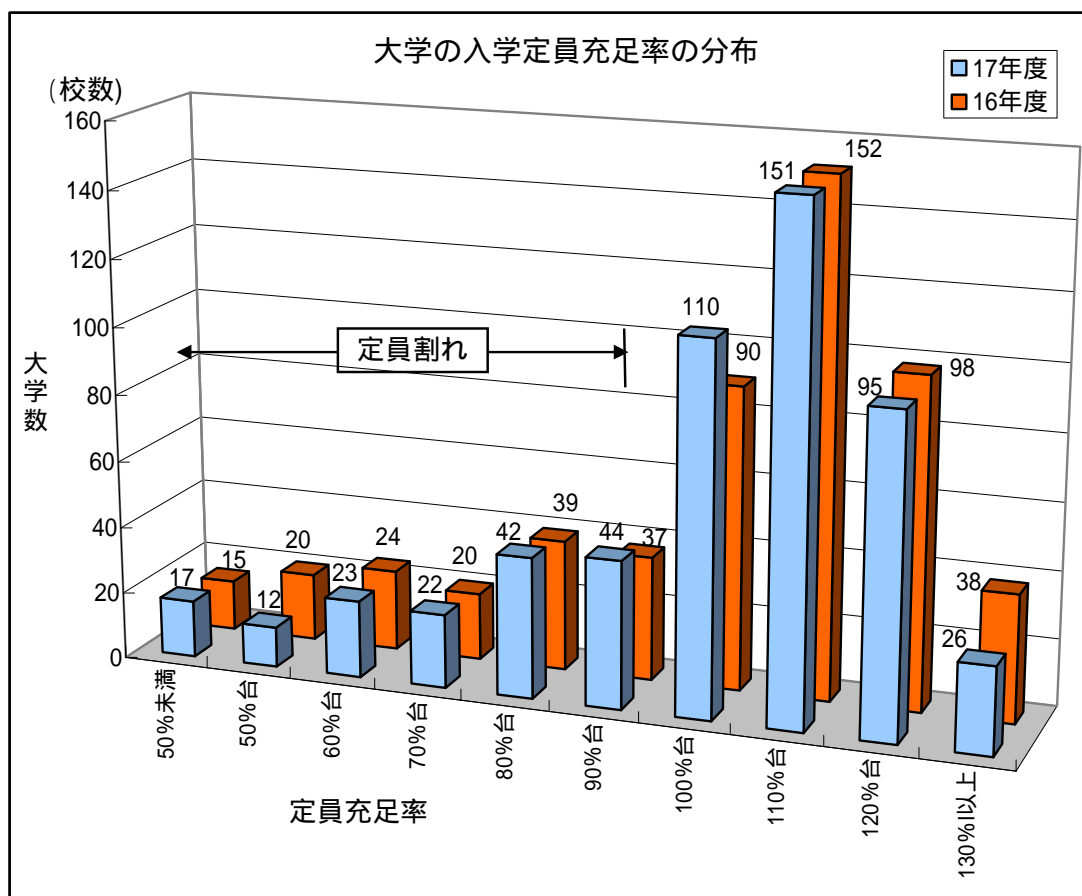
大学規模別の動向をここでは、1校あたりの入学定員が 3,000人以上、1,500人以上～3,000人未満、1,000人以上～1,500人未満の大規模クラス、500人以上～600人未満、400人以上～500人未満の中規模クラス、100人以上～200人未満、100人未満の小規模クラスに分けてみる。

志願倍率の最高は大規模大学の(10.61倍)で、以下、(7.58倍)、(6.59倍)。入学定員充足率も(113.31%)、(113.10%)、(112.97%)の順。一方、入学定員充足率の最低は小規模大学の(93.79%)で、これに(96.54%)が続く(志願倍率はともに4倍台)。

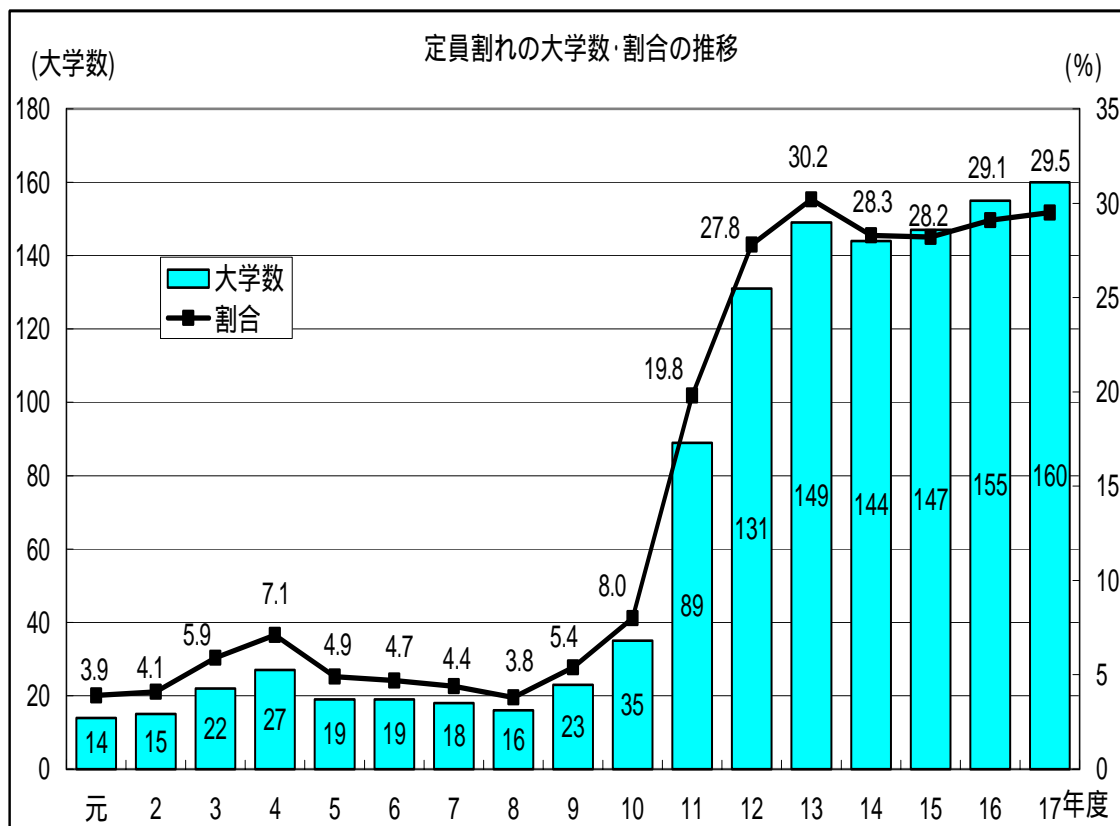
全体としては、大規模大学の志願倍率、入学定員充足率は高く、小規模大学はともに低い状態といえるが、最近数年の推移を見ると大規模大学でも下降傾向にあるという。

こうした中で、中規模大学の(志願倍率4.37倍、入学定員充足率108.50%)、(同3.77倍、同110.05%)は、志願倍率、入学定員充足率とも比較的堅調に推移しているという。定員割れの大学数・割合が11年度から急激に増加しているのに、全体の充足率がさほど大きな変化を示していないのは、大規模大学・学部による安定した数値によるとみられる(図2・図3参照)。図3のグラフは加重平均値で示してあるが、加重平均値には大規模の学部・学科の影響が、単純平均値には小規模の学部・学科の影響が現れやすい。11年度を境に、単純平均値が加重平均値を下回り、12年度以降、その乖離幅も持続されている。こうしたことから、11年度以降、大規模大学より小規模大学で定員充足率の厳しい状況が続いていることが伺える。

(図1)



(図 2)



(図 3)

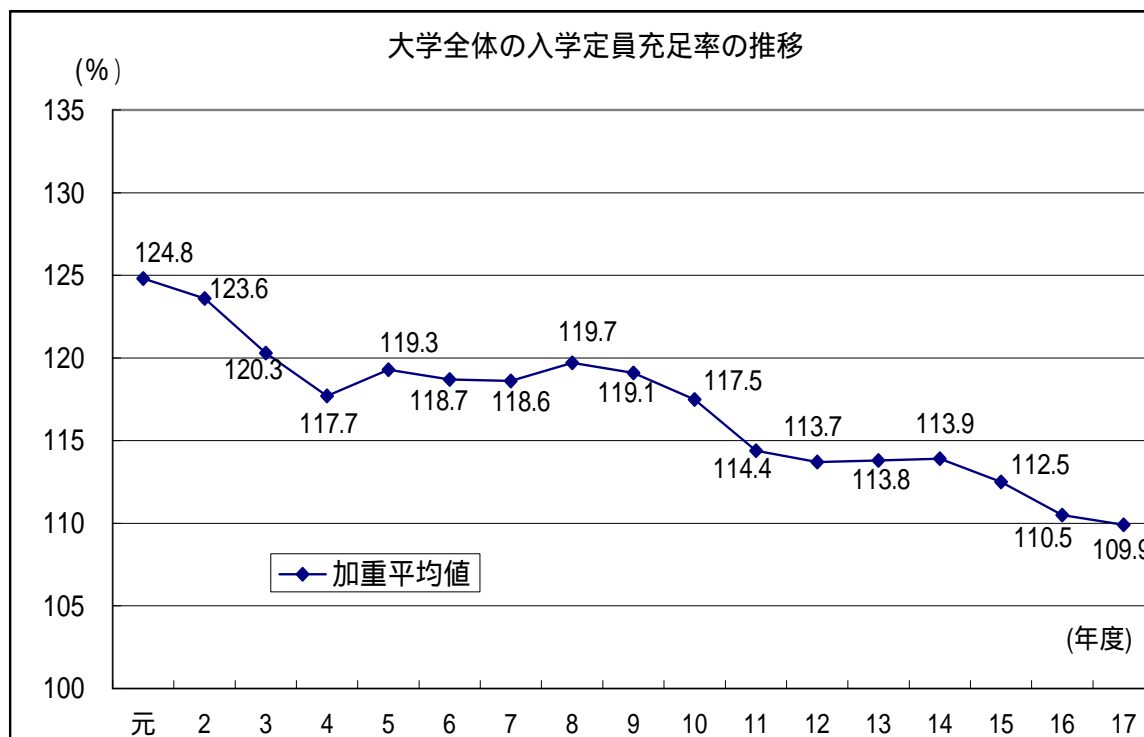
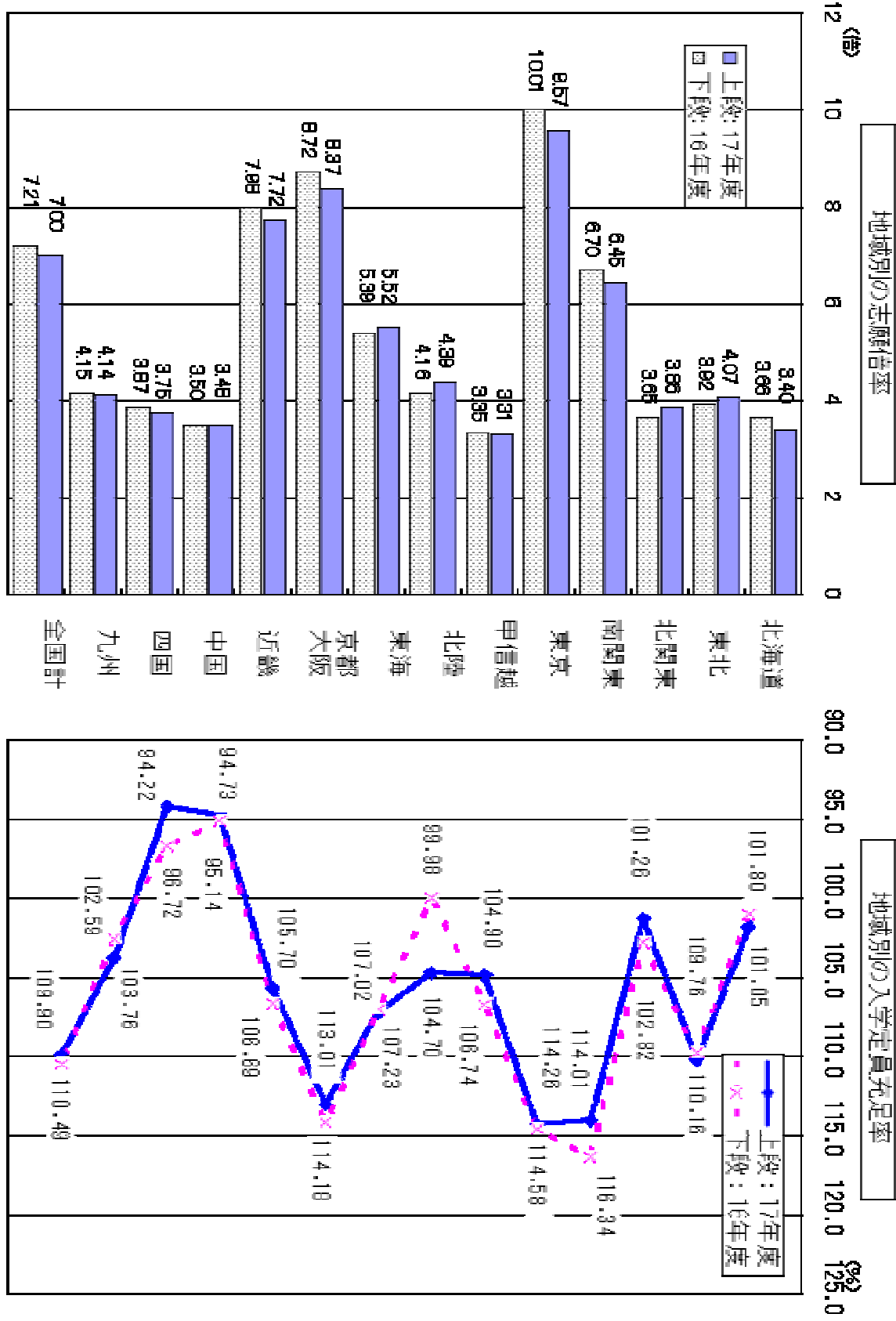


図 4



13地区： 北海道＝北海道 / 東北＝青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島 / 北関東＝茨城・栃木・群馬 / 南関東＝埼玉・千葉・神奈川 / 東京＝東京 / 甲信越＝新潟・山梨・長野 / 北陸＝富山・石川・福井 / 東海＝岐阜・静岡・愛知・三重 / 京都・大阪＝京都・大阪 / 近畿＝滋賀・兵庫・奈良・和歌山 / 中国＝鳥取・島根・岡山・広島・山口 / 四国＝徳島・香川・愛媛・高知 / 九州＝福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

# 短大

短大全体の基礎データ

(表2)

区 分	平成 17 年度	平成 16 年度	増 減
集 計 校 数	383 校	400 校	17 校
入 学 定 員 A	94,161 人	99,086 人	4,925 人 ( 5.0%)
志 願 者 B	173,922 人	191,271 人	17,349 人 ( 9.1%)
志 願 倍 率 B / A	1.85 倍	1.93 倍	0.08 ポイント
受 験 者 C	169,550 人	186,563 人	17,013 人 ( 9.1%)
合 格 者 D	117,996 人	124,764 人	6,768 人 ( 5.4%)
合 格 率 D / C	69.59%	66.87%	2.72 ポイント
入 学 者 E	93,742 人	99,320 人	5,578 人 ( 5.6%)
歩 留 率 E / D	79.45%	79.61%	0.16 ポイント
入学定員充足率 E / A (加重平均)	99.56%	100.24%	0.68 ポイント
入学定員割れ校数(割合)	158 校(41.3%)	164 校(41.0%)	6 校(0.3 ポイント)

(注) \* 対象は一般選抜、推薦入学(社会人・帰国子女等含む)など。  
通信制短大 1 校を除く。

\* 志願者・受験者数は、併願含む延べ数。\* 印は減少を示す。

## 概 況

短大数(集計数)は、四年制大への転換や募集停止などで、最も多かった 5 年度の 494 校から 111 校減って 383 校(16 年度より 17 校減)になった。

17 年度の入学定員は 9 万 4,161 人で、16 年度より 4,925 人(5.0%)減少した。

志願者数(延べ数)は 17 万 3,922 人で、16 年度より 1 万 7,349 人(9.1%)減少。志願者数は 4 年度(87 万 1,372 人)をピークに減少していたが、16 年度はセンター試験利用入試導入による四年制大との併願増などから志願者増となったが、今年度は再び減少に転じた。

入学定員充足率は昨年度、6 年ぶりに 100% 台を回復(100.24%)したが、17 年度は志願者、受験者、入学者とも減少し、入学定員充足率も 99.56%と、再び 100% 割れに転じた。

学科系統別の動向をみると、看護・保健(志願倍率 2.63 倍、入学定員充足率 105.91%)、保育・幼児教育(同 2.54 倍、同 121.91%)が高く、これに志願倍率では英文(2.42 倍)、国文(2.21 倍)が続く。入学定員充足率 100% 超は上記の他、福祉(100.22%)を加えた 3 系統のみ。

地区別で志願倍率の最も高いのは東京(志願倍率 2.31 倍、入学定員充足率 102.16%)、以下、京都・大阪(同 2.22 倍、同 103.18%)、近畿(同 2.13 倍、同 95.44%)など。